#### 徳島新聞 平成26年1月26日(日)

#### 福島大學大學院

#### 市民公開講座

### がんを知り克服する

#### プログラム

#### ■開会あいさつ ※## 2004 ・ お腹 移氏

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス (HBS) 研究部長

【1部】危険因子:生活習慣と感染症

#### ■第1部司会

萬亩 完建氏

同研究部消化器·移植外科学分野教授 光篇·安蒙氏

同研究部呼吸器·膠原病内科学分野教 授

#### 翻講演

「生活習慣とがん〜タバコとがん/喫煙 の有害性と禁煙の方法〜」

#### 猫淵 昌毅氏

同研究部呼吸器·膠原病内科学分野准 教授

#### ■講演2

「感染症とがん〜子宮頸がんの予防〜」 皆節 加条予氏

同研究部產科婦人科学分野助教

【2部】がんと遺伝

#### ■第2部司会

嵩山 哲治氏

同研究部消化器内科学分野教授

#### 対望 選氏

同研究部胸部·内分泌·腫瘍外科学分 野教授

#### ■講演 1

「遺伝するがん~正しく知ってしっかり 対応~

并苯 选藝氏

同研究部人類遺伝学分野教授

#### 爨講演2

「がんに関わる未知の遺伝子を探す」 『許稿』 警権氏

徳島大学疾患プロテオゲノム研究センターゲノム制御分野教授

#### 簡閉会あいさつ

**戸黒 章氏** 

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム カリキュラム企画運営委員長

徳島大学大学院市民公開講座「がんを知りがんを克服する一がんの危険因子と予防一」(同大学院へルスパイオサイエンス研究部、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム主催、徳島新聞社共催)が13日、徳島市の徳島グランヴィリオホテルで開かれた。同大学院の教官4人が禁煙、ウイルス感染を防ぐワクチン接種、遺伝性がんへの対応など、がんを予防するためのさまざまな方法について分かりやすく解説。がんへの正しい理解と定期検診による早期発見を呼び掛けた。講演の要旨を紹介する。



苛原 稔氏

開会あい

さつ

会あ

v

さつ

今後の生活に活用を

かっきの皆さんの生活に活用して今後の皆さんの生活に活用して、がんを十分知れるのではなく、がんを十分知れるのではなく、がんを十分知れるのではなく、がんを十分知れるのでは、がんの予防について目々研究が続防、治療について日々研究が続防、治療について日々研究が続防、治療について日々研究が続い、がんの予防について専門疾は、がんの予防について専門疾は、がんの予防について専門疾は、がんの予防について専門疾は、がんの予防について事情を表している。



丹黒 章氏

最大の武器は早期発見

でい。がんを予防する方法として禁煙やワクチン接種、遺伝子検査などさまざまな方法が紹介された。ぜひ今後の生活に生かしてほしい。がんを克服する最大の武器は早期発見である。がん予防に取り組むとともに、定期検診を受けて早期発見・早期治療にも努めていただきたい。 これまで徳島大学でたくさんの新薬が開発されている。遺伝子の研究から将来のがん治療にたい。がんを克服するためには、皆さんの病気に対する正しい理解が必要となる。今後もこうたい。がんを克服するためには、皆さんの病気に対する正しい理解が必要となる。今後もこうたい。がんを克服するためには、皆さんの病気に対する方法として禁煙やワクチン接ている。

生活習慣とがん 煙の有害性と禁煙の方法~ 〜タバコとがん/喫 埴淵 昌毅氏

第2位となっている。 ばこの煙には4000種 高血圧に次ぐ死亡原因の ばこの3大有害物質とい 物質が含まれている。 〇種類以上が毒物であ れている。そのうち25 類以上の化学物質が含ま 進)。喫煙を続けている あり) ③一酸化炭素 (低 がん物質)のニコチン えばロタール(強力な発 びりついて真っ黒にな と肺の表面はター 酸素血症、動脈硬化を促 (中毒性、 喫煙は全世界において 60種類以上の発がん



は23%も減少する。

は肺がんが一番多い。喫はがんであり、部位別で の原因は喫煙である。喫 る。こうした点からたば 煙者におけるがんの最大 理解できると思う。 こがいかに有害であるか 日本の死亡原因第1位 る。

は喉頭がんが約32倍、肺 平均1・65倍。部位別で 非喫煙者に比べて男性で は約2・2倍となってい がんが約4倍、食道がん 煙者のがん死亡リスクは

喫煙量と肺がんのリス

ほど肺がんになるリスク と、たばこを吸えば吸う 70歳まで生きる人の割合 と寿命は10年短くなり、 めるため、喫煙を続ける 以外にも喫煙はさまざま が高くなる。また、がん クを調査した結果による な病気の発症リスクを高

2人いる場合は2・3倍 発症リスクは1・5倍、 題も深刻である。家庭内 に1人喫煙者がいる場 たばこは受動喫煙の問 受動喫煙によるがん 同居している喫煙者

がんであれば、 んのリスクを減少させる が多いほど高くなる。 ことができる。 禁煙すれば、 確実にが 禁煙して

いえる る。これはすべてのがん 20年たつと、がんのリス 最も有効ながん予防策と にいえることで、禁煙は クは非喫煙者と同等にな

ている。がんと診断されもに下がることが分かっ て遅くないということ てから禁煙しても、 も、死亡・再発リスクと れてから禁煙した場合で すでに肺がんと診断さ 次し

意志の問題ではない。 たばこがやめられない 健康保険適用でニ

れば、 るものであって、本人の のはニコチン依存症によ に取り組んでほしい。 貼り薬や飲み薬が処方さ コチン依存症を治療する 解した上で、すぐに禁煙 たばこの害をしっかり理 れる。喫煙している方は 療機関で禁煙治療を受け

がんの予防法を解説した講演に耳を傾ける参加者 =徳島グランヴィリオホテル



可能となっている。この ン接種による1次予防も 最近ではHPVワクチ 注射部位の痛み、 象となっている。ワクチ ン接種後の副反応として かゆ

型と18型の感染をほぼ1 ら多く見つかるHPV16 ワクチンは子宮頸がんか PVに感染する前の10代 00%防ぐことができ 生の女子は公費助成の対 学校6年生から高校1年 前半が効果的であり、小 る。接種する時期は、H ている。 である。 受けて、早期発見・早期 子宮頸がんは予防できな ク型HPVが原因となる は16、18型以外の高リス み、腫れなどが報告され 治療に努めることが大切 いため、定期的に検診も ただしワクチン

# でも効果

感染症とがん 子宮頸がんの予防~

吉田

近、この子宮頸部に発生 の管状の部分であり、 つ)につながる子宮下部 い女性に急増している。 するがんが20~30代の若 然と治癒している。 9割は自分の免疫力で自 ではなく、感染した人の 性が1度は感染している への感染である。このウ てすぐにがんになるわけ イルスにはほとんどの女 レ感染が長期に持続した 子宮頭部とは膣(ち -マウイルス(HPV) 主な原因はヒトパピロ 感染したからといっ 一部の人で細胞が

らに一部の人が子宮頸が が見られた人の中からさ があり、この前がん病変 前がん病変へと進むこと が多い③多産④喫煙⑤免 交年齢が若いの性交相手 いる。持続感染には①初 んに進行するといわれて

関わっている。 服用(5年以上)などが と進行し、命を脅かすま上皮内がん→浸潤がん」 でに平均10年かかる。特 異形成(前がん病変)→ 疫力低下の経口避妊薬の 子宮頸がんは「正常→

加奈子氏 のがんであれば、レーザ けることが重要である。 る。ただし、前がん病変担の少ない治療ができ 早期発見できれば体に負 く続くため、この段階で に前がん病変の状態が長 ため、定期的に検診を受 や初期がんは症状がない 要となる。 切除など子宮を温存して 療法、化学療法などが必 すると子宮全摘や放射線 治療できる。しかし進行 前がん病変やごく初期 検診では問診、内診、 蒸散や子宮頸部の一部

ほとんど見落としはな 細胞診を行っており、こ る検査を併用することで れにHPVの有無を調べ

遺伝するがん 一正しく知ってしっかり対応く

井本

が、それをくぐり抜けて 遺伝子に異常のある細胞 いてエラーは修復される る。通常は体の免疫が働 ラーを生じることがあ 分裂する際に遺伝子にエ ス感染など)によって、 まな刺激(発がん物質 り返しているが、さまざる細胞は分裂と増殖を繰 私たちの体を作ってい 紫外線、ウイル

壊れてしまい、細胞の無めるブレーキの役割)が 抑制遺伝子(がん化を止 アクセルの働き)やがん 遺伝子(がん化を進める が蓄積していくと、がん の5~10%は強い遺伝要で発生するが、がん全体 んは進行していく。秩序な増殖が起こり、 因によって起こるため 激)の両方の影響を受け と環境(さまざまな刺 ほとんどのがんは遺伝 が

この遺伝子を持っている 子は主にがん抑制遺伝子 れている。 い年齢で発症することが 人は、平均より極端に若 (プレーキ)の異常で 「遺伝性のがん」といわ 遺伝性がんの原因遺伝

逸勢氏

したり、複数の臓器に重める。一つの臓器に多発 る。例えば遺伝性乳がん がんそのものではない。 何度もできたりする。たしても新しく別のがんが んや大腸がんなどがあ 起こりやすさであって だし遺伝するのはがんの 複して起こったり、 治癒 遺伝性のがんには乳が る。ただ遺伝子の変異が伝子異常が見つかってい からないから遺伝性の んではない、とも言い もがんになるわけではな あるからといって必ず 乳がんの約3割にこの遺 常が原因であり、 遺伝子の変異が見つ ただ遺伝子の変異が 遺伝性

ある。BRCAI、 発症する、などの特徴が がんと卵巣がんの両方を がんの発症者がいる⑤乳 たり発症者がいる①卵巣 症する。多世代以上にわ 房に独立して乳がんを発 C)はO若い年齢で乳が 卵巣がん症候群(HBO んを発症するの両方の乳 決定に役立つ、 が可能になり、もし発症 と受けることで早期発見 した場合でも治療方針の 応じた定期検診をきちん 測できる。そのリスクに がんにかかるリスクを予 場合、遺伝性かどうかを 正しく評価することで、 選択肢の一つとしてこ 遺伝性がんが疑わし

じている。遺伝相談室は萬大学でも遺伝相談に応 218〉(要予約) 知っておいてほしい。 (電088 (633)

CA2という遺伝子の異

うした検査もあることを

## 検査 スク予測

がんに関わる未知の遺伝子を探す 豊雅氏

細胞を増殖させる。 ンの影響を受けて増殖す は乳がん細胞の中にある んである。エストロゲン するホルモン依存性乳が ン)の刺激でがんが増殖ホルモン(エストロゲ 乳がんのホルモン療法 乳がんの約7割は女性 乳がんがエストロゲ

は、 を抑制する。閉経後と閉よって、がん細胞の増殖 る性質を利用した治療 するのを阻害することに を抑えたり、エストロゲ ンが受容体と結合したり 法。エストロゲンの産生

ホルモン療法が効かない がある。また、もともとかなくなってしまうこと きて、ホルモン治療が効 長期間続けると耐性がで も使い分けられる。 るため、ホルモン療法剤 分泌される仕組みが異な しかしホルモン治療を G3」という遺伝子ががん細胞の増殖には「BI ん抑制遺伝子(車に例え 果、ホルモン依存性乳が 研究を続けた。その結 服するために、新たながる。このような問題を克 んに関わる遺伝子を探す タイプの患者さんもい

と、このBIGSの働き 合物)を発見することが を阻害するペプチド(化 とが分かった。 えられなくなっているこ さらに研究を進める

瘍効果を引き起こすこと 止めることで顕著な抗腫 常に速くなる)の暴走を ると細胞の分裂速度が異 子(車のアクセル=壊れ せるとともに、がん遺伝 を抑制する機能を回復さ 抑制遺伝子は本来の増殖 た。留め具が外れたがん **శ్ర** 

3を外すことに成功し 胞に投与することで、 ん抑制遺伝子からBIG できた。これを乳がん細 ーキが効かない状態になの役割をしていて、プレ るとプレーキ)の留め具 がん細胞の増殖を抑 には存在しないことかのみに存在し、正常細胞 ę, る も分かった。 らないと期待されて 症状などの副作用も起こ 法で起こっていた更年期 の量や作用に影響しない ドの効果はエストロゲン えられる。さらにペプチ ため、従来のホルモン療 い副作用は起きないと考 BIG3は乳がん細胞 抗がん剤のような重

望を持って頑張ってくだ がんと闘っている方は希 新薬開発は日進月歩。 ースもある。基礎研究・ で臨床応用されているケ 最近では3~10年くらい するペプチドを使った新 かなり時間はかかるが マウスの実験段階であ たな治療薬の開発はまだ 新薬の認可には通常 よG3の働きを阻害

ん専門職医療人」 を養成するために、 中国 一環として、がん医療に関する最新の情報を提供するなど各種講座を開 催している

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン の目的であるがん治療の均てん化を実践するために、 職医療人の絶対数の不足と地域偏在をなくす目的で昨年スタートした。 「高度な技術と知識を持ち、地域を理解し、高齢社会にも対応できるが

たな治療薬

経前ではエストロゲンの